

## マタイによる福音書 (The Gospel according to Matthew)

新約聖書の最初に配された共観福音書。有名な14代ごとのイエスの系図ではじまり、生誕、バプテスマのヨハネによる受洗、宣教活動、十字架上の死と復活についての記述のほか、山上の説教をはじめ55にもおよぶイエスの言葉と説教を含み、他の福音書に比してきわめて組織的で、特に旧約との関係を強調し、教团的思考を重視、イエスを待ち望まれていたメシアとし、イエスの生涯と福音を旧約聖書の預言の成就と見ています。もともとはユダヤ人キリスト者を対象とし、最初のキリスト者にとって、ユダヤ人の聖書である旧約聖書から引用することにより、この新しい信仰がユダヤ教に根ざしていることを示すことが重要と考えられており、すなわち、イエスと過去の出来事をつなぐ「橋渡し」とすることが狙いで書かれたものと考えられています。なお、他の福音書が「神の国」としている表現に対しては、この福音書は「天の御国」という表現を多用していますが、この概念は、当時、一般的だったメシアの考え方は根本的に異なっています。その理由としては、ユダヤ人の多くは、ローマの支配から自分たちを解放してくれる政治上の指導者を期待していたからです。

最後に特筆すべきは、28章19節に至り、この福音がユダヤ人にとどまることなく、すべての国民に述べ伝えられるべき、と述べており、イエスが単にユダヤ人だけの救い主にとどまらず、あまねく全世界の救い主であることを明らかにしています。

成立年代は諸説あり65年から100年の間に亘っています。

著者はその名の通り、イエス・キリストの使徒であるマタイとされてきましたが、別の説ではキリスト教徒に改宗したユダヤ教徒が著わしたものとしています。

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」 (マタイによる福音書28章19節～20節)

(参照文献：ブリタニカ国際大百科事典電子辞書対応小項目版)

(参照文献：新改訳聖書 注解・索引・チェーン式引照付 いのちのことば社)

(参照文献：カラー 新聖書ガイドブック いのちのことば社)